


《フリーテニス》		・テニスの10分の1の広さのコートで行う、本格的なソフトテニスの動きと、卓球のおもしろさを兼ね合わせたミニテニスです。
写真		
起源	<p>・アメリカで生まれたショートテニスを改良したものとか、第二次世界大戦後駐留軍とその家族が楽しんでいたパドルテニスだとか言われているが、はっきりしていない。</p> <p>・戦後、日本国内でも板切れラケットでテニスもどきの遊びが盛んに行われていたが、これらをヒントに、よりスポーツ性を高めたゲームとして、吉田正明と青木泰三が考案し、競技規則を確立させた。</p>	
人数	・1対1(シングルス)、2対2(ダブルス)	
場所	<p>* ネットの高さは40cm、</p> <p>・ 平坦な所であれば、土、コンクリート、アスファルト、室内の板の間など、どこでもよい。</p>	
進め方	<p>・ジャンケンを行い、勝者がサービス又はコートの選択を行う。</p> <p>・サービスとレシーブは1ゲームごとに交代し、コートは奇数ゲームが終了するごとに交換する。</p> <p>・サービスは1ゲームの終わりまで決まった1人が、左右交互にサービスを行う。</p> <p>・ダブルスの場合は、4人とも交互にサービスをする。(第1ゲームのサーバーのパートナーは、第3ゲームでサーバーとなる。)</p> <p>・サーバーはコートの右側に立ち、ボールを60cm以内の高さからワンバウンドさせサービスを行う。この時ボールはネットを越え対角方向のサービスコートに入らなければならない。</p> <p>・ボールがネット上端及びポストに触れて相手コートに入った時は、ノーカウントでサービスをやり直す。</p> <p>・サービス回数は1回で、1つのフォールトで1点を失う。</p> <p>・得点コールは、サーバーの方を先にする。デュース後2点先取した方がそのゲームを取る。</p>	
勝敗の決め方	<p>・4点を先取したプレイヤー、またはチームがそのゲームを取る。</p> <p>・5回ゲーム(3ゲーム先取)が基本。プレイヤーの状態により3回ゲーム(2ゲーム先取)や7回ゲーム(4ゲーム先取)で行ってもよい。</p>	
その他の	<p>* 次の場合は、失点となる。</p> <p>・サービスを急に中断したり、動作が終わらない内に各種ラインを超えたり触れたりした時。</p> <p>・ワンバウンドでサービスを行わなかった時や、ボールが相手側のサービスボックスに入らなかった時。</p> <p>・サービスが終わらない内にサービス側のパートナーがコート内に入った時。</p> <p>・ボールがネットを越さなかったり、相手方のコート外に落下した時。</p> <p>・ツーバウンド以上のボールを打った時や、ボールがコートに落ちる前に身体や衣服に触れた時。</p> <p>・ラケットや身体、衣服がネットやポストに触れたり越えたりした時。</p> <p>・同一のラケットで2回以上続けてボールに触れた時やサービスされたボールをノーバウンドで打った時</p> <p>・ボレー及びスマッシングを同一チームが連続して打った時。(ボレーで返した次のボールは、必ずワンバウンドで返さなければならない。)</p>	